

KLIS TODAY

No.
25

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

平成26年度卒業研究最終発表会

卒業研究最終発表会が1月14日に開催されました。発表会は各主専攻ごとに行われ、知識科学主専攻33名、情報経営・図書館主専攻56名、知識情報システム主専攻24名の計113名が発表しました。

知識情報・図書館学類では卒業研究が全学生に課せられています。卒業研究は4年間学類で学んできた知識をもとに自身のテーマを深く追求できる貴重な機会となっています。3年次の後半に研究室の決定・配属が行われ、4年次の6月に着手発表会、10月の中間発表会を経て最終発表会をむかえました。

発表者はパワーポイントを用いながら研究成果を発表しました。その後、教員等の出席者と質疑応答を行いました。



発表会の様子
(情報経営・図書館主専攻)



発表会の様子
(知識科学主専攻)



発表会の様子
(知識情報システム主専攻)



近未来図書館これくしょん

宇陀 則彦・松村 敦

2014年11月2日～3日に開催された筑波大学学園祭「雙峰祭」において、宇陀研究室と松村研究室は附属図書館と共同で「近未来図書館これくしょん」という企画展示を実施し、雙峰祭グランプリの最優秀賞を受賞しました。私たちの企画展示は通称「近未来シリーズ」と呼ばれ、今回は2010年度、2011年度以来、3度目の最優秀賞獲得となりました。これまで「近未来書籍カフェ」、「近未来書籍空間」、「近未来書籍Lab.」、「近未来らいびらり」と毎年さまざまなコンセプトを打ち出してきました。今年は5年目ということで集大成となるよう、これまで好評だった企画をグレードアップするとともに、新しいアイデアを加えた最高の展示を目指しました。



会場の様子

A. 展示

1. テーマ本棚

研究室のメンバーがそれぞれ好きなテーマで本棚を構成する展示です。図書館や本屋で使われている一般的な分類ではなく、もっと自由に本を使ってテーマを表現しようという試みです。必ずしも本だけで構成する必要はなく、iPadを使った電子書籍やさまざまなオブジェを組み合わせてもかまいません。

2. IMAGINE THE FUTURE本棚

筑波大学は「筑波ブランド」を確立するプロジェクトのスローガンとして **IMAGINE THE FUTURE**を謳っています。そこで、近未来シリーズの「未来」と「**FUTURE**」をかけて、未来を想像できる本を来場者に持ち込んでもらい、未来を想像する本棚をみんなで作り上げようという企画です。せっかくですので、学長や副学長にも未来を想像する本を提供してもらいました。

3. ブックツリー

この展示は覆面本棚の発展形です。覆面本棚とは本を袋に入れて覆面し、本を見えないようにした上で本の中で使われている印象的なフレーズを袋の外側に書きます。たとえば、「お前、金魚のブライアン食ったろ」といったフレーズです。来場者はこの刺激的なフレーズが書いてある本はどんな本だろうとドキドキしながら袋を開けるわけです。ブックツリーは、覆面した本を本棚ではなく、帽子ハンガーに吊るすことで本の木のように展示したものです。



テーマ本棚（ヴァイオリン）



図書館体操

B. イベント

1. ビブリオバトル

ビブリオバトルは「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がっている本の紹介ゲームです。面白いと思った本を発表者が順番に5分間で紹介します。全員の発表が終わった後に「どの本が一番読みたくなったか」を参加者全員で投票し、最も票を集めた本が「チャンプ本」になります。

2. 絵本の読み聞かせ

単に絵本を読むのではなく、プロジェクタを使って絵を壁に投影し、雰囲気盛り上げながら読み聞かせを行います。

3. 絵本探し

ヒントを元に該当する絵本を探すゲームです。問題は年齢層ごとに用意しているので子どもだけでなく大人でも楽しめます。

4. 図書館体操

図書館体操は東日本大震災の際に図書館職員が考案した体操で、体を動かして防災意識を持ち続けようという思いを込めて、図書館業務の動きを体操に取り込んだものです。学園祭では、筑波大学附属図書館のマスコットである「がまじゃんぱー」も一緒に踊りました。

5. Bibliothek Kompanie (びぶりおてーくこんぱにー)

これは見知らぬ人同士が本や図書館への愛を共有する新しい形のコミュニケーションイベントです。本や図書館への愛を参加者同士で共有できるよう、さまざまな“きっかけの場”を用意しました。たとえば、図書館の設計から裏話をガイドで案内する「そうだったのか！中央図書館ツアー」などを行いました。素敵な出会いが図書館でありますように。

(うだ・のりひこ 知識情報・図書館学類 准教授)
(まつむら・あつし 知識情報・図書館学類 助教)

図書館総合展に参加しました

山口 未来

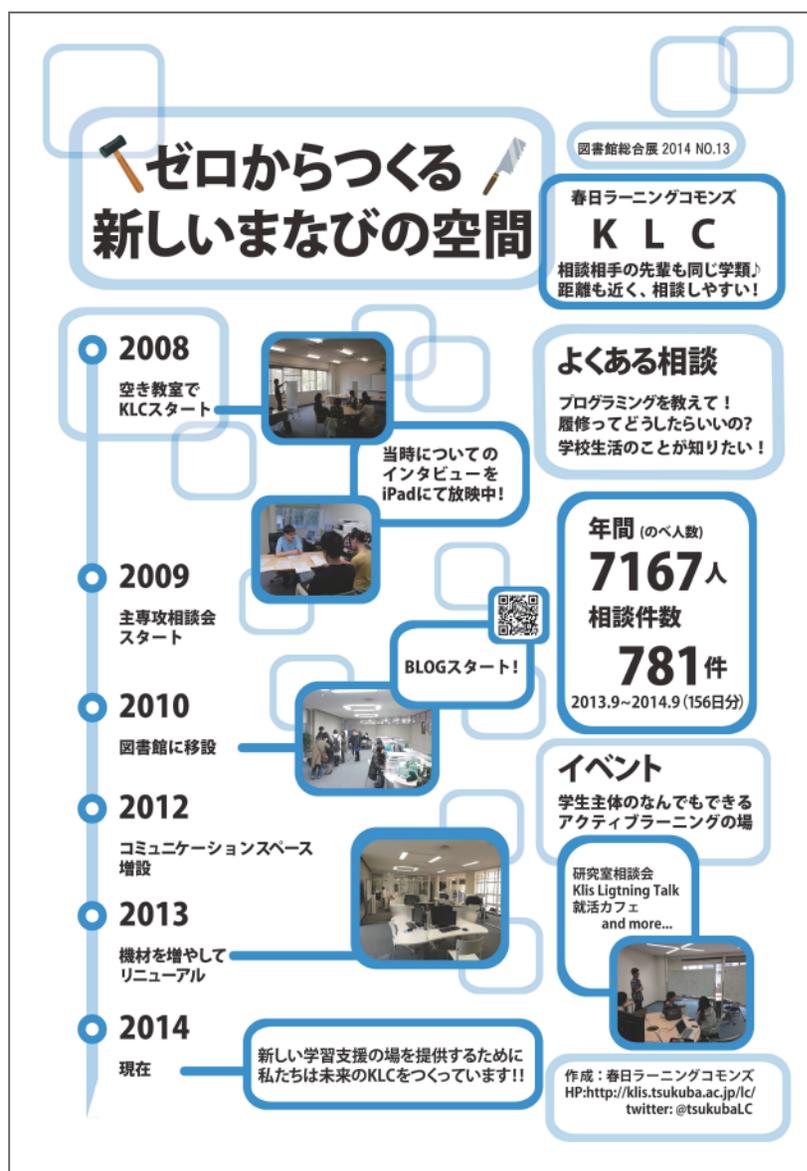
毎年秋に横浜で行われる図書館総合展も2014年で16回目となりました。

図書館関係者の情報交換の場である図書館総合展は大学、公共を問わずさまざまな図書館の活動や出版社・メーカー等の最新の情報を発信するブースや、大学や各種専門機関のフォーラムなども

あり、さながら図書館業界のお祭りのようなイベントです。学生のうちに一度は行ってみたいと思う、学外における貴重な情報収集の機会でもあります。

そのなかでも、各種団体・個人が出展するポスターセッションには毎年注目が集まります。筑波大学でも中央図書館や知識情報・図書館学類の研究室で出展していました。私たちが活動している春日ラーニングcommons(KLC)でも毎年出展しており、日頃の活動を学外に発表する機会になっています。

総合展当日は学類4年生と院生によるポスターの説明や質疑応答をしました。他大学のラーニングcommons関係者からも興味を持ってもらい、KLCの特徴である学生主体の運営体制や学類生が答えるチューターの学習支援などに驚かされていました。そのような他大学の関係者の反応から、KLCの活動の意義を再認識し、魅力を改めて感じることができました。



当日のポスター

(やまくち・みらい) 知識情報・図書館学類3年次

KLCの意義を見つめ直せたポスター制作

伊川 真以

春日ラーニングcommons（KLC）は、今年度も図書館総合展で実施されているポスターセッションに出展しました。ポスターのテーマは「ゼロからつくる！新しい学びの空間」としました。KLCの活動を多くの外部の図書館関係者などに周知させ、学生主体で実施しているラーニングcommonsの運営のノウハウをシェアしたいという思いからポスターを作成しました。

ポスターの作成は学類の2、3年生が中心となり、6月から開始しました。当初はポスター制作のテーマやコンセプトの決定、KLCの歴史を探るために教員にインタビューなどを行いました。インタビューはKLCの運営が始まったときの様子をよく知っている逸村先生にお願いしました。開始当時は空き教室を利用して活動を実施していたことや、2010年にKLCのスペースを改装したときの状況などさまざまな様子を伺いました。他にも網羅的にKLCに関する情報を収集し、当時の運営上の方向性や問題、課題を明らかにし、ポスターを少しずつ形にしていきました。KLCの今までの成果や良さを分かりやすく人々に伝えられるように、ポスターのデザインにも力をいれました。

今回のポスター制作を通してKLCの歴史や活動を改めて迎えることにより、KLCの意義や価値を再確認することができました。一方でこれからの新しい学びの空間をさらに発展させるべきであるとも感じることができました。学生が一丸となってゼロから新しい学習空間をつくることの大変さや先輩方の意欲的な活動実績を垣間見て、とてもいい刺激になりました。KLCは今後も試行錯誤を繰り返しながら新しい学びの空間を提供し、ラーニングcommonsの可能性を広げて生きたいと考えています。

（いかわ・まい 知識情報・図書館学類3年次）



逸村先生に当時の様子をお聞きする



打ち合わせ風景

北陸LCツアーに行ってきました！

清水 裕梨・矢野 光華



清水

KLCでは、9月25日～26日に新潟大学附属図書館中央図書館と金沢大学附属図書館中央図書館にお伺いしました！



新潟大学附属図書館



清水

1日目に訪問した新潟大学の中央図書館は、2013年リニューアルのとてもきれいな図書館でしたね。

そうですね！改修後1年で入館者数が100万人を突破したそうですよ！



矢野



清水

確かに見学時も自習スペースなどの設備を利用している人が多くいましたね。外国語専用の学習支援ブースもあり、図書館に足を運びたくなるのもわかります。

図書館内はデザインも工夫されていましたし、バリアフリーや視覚的に使いやすい壁や床が印象的でした。



矢野



清水

2日目の金沢大学は、筑波大学に比べて飲食スペースが充実していたと思いますね。エントランスの横には飲食をしながら、ミーティングや自習など自由に使える学習スペースが提供されていました。

新聞や雑誌コーナーもあって居心地がよさそうでしたね。図書館内にはオープン・フリーを意識した学習空間の他に、学生ボランティアやアドバイザー専門の教員を配置するなど、人的サービスにも力をいれているように感じました。



矢野



清水

2つの大学図書館を見学して、どうでしたか



金沢大学附属図書館

筑波大の図書館との違いに触れることもでき、それぞれの大学の強みや課題について、図書館員と意見交換も行うことができたのは、とても有意義だったと思います！他大学のラーニング commons の工夫に刺激を受け、よりよい空間づくりについての考えを深めることができたのではないのでしょうか？



矢野

(しみず・ゆり 知識情報・図書館学類2年次)
(やの・みか 知識情報・図書館学類2年次)

学生の“声”を大学に届けたい ークラス代表者会議の一員として

脇田 萌佳

クラス代表者会議(以下、クラ代)、と聞いてみなさんはどんなものを想像するでしょうか。生徒会や学級委員のようなものか、と思われるかもしれませんが、たしかに似ている面はありますが、実はその前提から少し異なります。

高校を卒業して大学に入学し、私たちは「生徒」から「学生」になりました。多くの人が同級生との関わり方や学校と自分たちの距離感に変化があったのを感じているのではないのでしょうか。このような大学という新しい環境で学生と学生の、また学生と大学の橋渡しの役割を担っているのがクラ代です。知識情報・図書館学類のクラ代は同じ春日エリアで学ぶ情報メディア創成学類のクラ代と連携して「春日クラ代」として活動しています。大学における公的な学生組織として各学類に設置されている存在ではありますが、既存の枠組みに囚われず「春日エリアの学生の授業環境・生活環境の向上」と「学生どうしの結びつきの強化」を主なミッションに掲げ、自分たちに何ができるか日々模索しています。これまで学生からの要望を受けて授業内容の改善やエリア内の街灯と駐輪場の増設、学内無線LANの改善、春日食堂のメニュー改良、やどかり祭でのクラス模擬店の運営などさまざまなことに携わってきました。

この2年間を振り返ると、クラ代での活動は私自身にもかけがえのない出会いや経験をたくさん与えてくれたように思います。多くの学生や教職員の方々と接するなかで苦労したことや忙しい時もありましたが、毎日が充実していて、何よりとても楽しかったです。

私たちクラ代の原動力はみなさんの“声”です。大きな声も小さな声も1つずつ丁寧に代弁する存在でありたいと思います。これからもみなさんの力を借りながらよりよい春日エリアを、知識情報・図書館学類をつくっていきたいです。

(わきた・もえか 知識情報・図書館学類2年次)



会議の様子

情報リテラシ実習の最終発表会

情報リテラシ実習は、コミュニケーション力の向上を目的とした授業で、1年次の学生が履修しています。今年度は、論証型レポートの書き方を学び、それぞれが考えたテーマについてレポートを作成しました。そのレポートの内容をもとに発表を行ったプレゼンテーション発表会（2015年1月21日）と、ベストプレゼンテーション賞の授賞式（2015年1月28日）の様子は、以下の通りです。



発表の様子、学んだコミュニケーション力を発揮！



発表を見まもるクラス担任



真剣な表情で発表を聴く学生たち



水嶋先生から賞状を受け取る学生



賞状を手し、よろこびの表情